

# 歴史資料館だより

聖隷グループ第三回キリスト教信徒交流会

「今だからこそ聞ける、聖隷や十字の園のこと」

社会福祉法人十字の園 理事長 平井 章

聖隷歴史資料館主催の第三回キリスト教信徒交流会が、二〇一二年一月二十八日に聖隷クリストファー大学学生ホールを会場に開催されました。

## プログラム

礼拝 鈴木崇巨先生（聖隷学園宗教主任）

聖書 ヨハネ一三章二一―一五節

説教 「易しく語り伝えよう」

ビデオ上映 「十字の園五〇年の歩み」

講演 「私の歩んできた道」

「今だからこそ聞ける、

あの頃の聖隷や十字の園のこと」

鈴木唯男氏（聖隷社創設時からの職員）

山浦ミツ姉妹（日本人ディアコニッセ第号）

鈴木フミ氏（十字の園創設からの婦長）

交流会・開会挨拶・開会の祈り・会食

講演 「私の歩んできた道」

「十字の園の働きの中で」

三條洋二氏（松崎十字の園施設長）

上野貢一氏（アドナイ館施設長）

閉会挨拶・讃美歌・閉会の祈り

参加者一一六名。（担当法人十字の園）

聖隷看護に携わった人たちの「ささ

ゆり会」の文集に「あなたにとって聖隷とは何だったのでしょうか」の問いがあります。鈴木まつさんは「聖隷って別天地だったと思う。弱い人は丈夫な人が補い、一人前になれる様にしてくれた」と記し、鈴木清子さんは「私の人生をひっくり返し、人間の本当の生き方を教えてくれたところ」と記しています。この良き時代を「聖隷の楽働時代」と呼ぶ人もいました。

鈴木唯男氏は、「御心のままに運ば

れた人生」と題して一九九七年の週報に、「長谷川保氏は、聖書を通して自分の人生は、隣人愛に生きることにあると教えられ、浜松の地に帰って、クリニングの仕事を始めに行った。私はこのクリニング店へ、まったく知らない人に、何の前触れもなく連れて行かれた。……神が摂理の手綱によって、私の人生の出来事の一つ一つを、御心のままの方向へ持ち運ばれた。」

発行者 聖隷歴史資料館

〒四三三―八五五八

浜松市北区三方原町三四五三

聖隷クリストファー大学二号館二階

TEL 〇五三（四三九）三四〇七

FAX 〇五三（四三九）三三三七

と記し、「聖隷に拾われなかったらどんな人生だったか、いい時代に働くことができて幸せだったよ。」と語っています。

山浦ミツ姉妹（日本人ディアコニッセ

七第一号）は、聖隷、十字の園、おぞらの家で働いたことについて、「私たちはハニ姉妹に学びましたね。素晴らしい人でした。その中心は他者の事をまず第一に思うこと。そういう自然の生き方を見て教えられました。働かせていただいて、つらいと思ったことは一度もない。患者さんと一緒に喜んだこと、それしか残っていないです。」と話されました。

鈴木フミ氏は、「聖隷の中で先輩の

方々の生き方を教えられ、支えられてきた私にとって、聖隷から十字の園に移るに当たって、何を引き継いでいくか考えました。とに角、神への礼拝から始まる一日を引き継ぎました。今でも各施設で継承されています。一〇年後、御殿場に行くことを決めたとき、新設の老人ホームの廊下で、ハニ姉妹が日本の老人のために歩かれた足跡を、ここで、もう一度踏んでみたいと祈り

◆聖隷歴史資料館

開館時間のご案内◆

平日（月～金） 一〇時～一七時

（入館は二六時三〇分まで）

ました。伊豆高原十字の園に移るときには新しい思いを持って、原点に帰って出発したい。一人の生命を大切にすることから始められた聖隷のように、一人の人格を愛し尊重されたハニ姉妹のようにと願いました。」と話されました。

聖隷の理念である「隣人愛」、キリスト教精神は、この先人たちの信仰と日常の働きの中に築かれたのです。

大先輩のお話を聞かせていただく中で、「昔は良かった」で終わることなく、これからも「こうありたい」と改めて思わされた信徒交流会でした。



# 新5号館への移転

学校法人聖隷学園 法人事務局長  
小柳守弘

二〇一三年四月、聖隷歴史資料館は大学二号館二階から大学新五号館一階（聖隷学園正面玄関入口）に移転します。移転に伴いまして聖隷グループ各代表者にお集まりいただき、電通関西支社の協力を得て展示内容・方法を再検討しており、構想が具体的になってきましたので紹介させていただきます。

新聖隷歴史資料館の再検討にあたっては次の三点を大切にして進めております。

①「聖隷は多くの方々の支えによって現在があることにスポットをあてること」

②「聖隷の源流にふれる歴史ゾーンと聖隷グループゾーンとを連動して展開すること」

③「『観て、感じる』を体感できる最新の映像機能を活用すること」

それでは下記レイアウト図の入口から順にご案内させていただきます。

## ① 聖隷の精神

聖隷の精神「隣人愛」を象徴的（「ペテロの足を洗うキリスト」を中心）に表現します。

## ② 遠州栄光教会

聖隷の働きの中には教会が必ずあり、正しい行いへと導いてくださること。「見えない信仰と祈り」「聖隷の見える行い」について

て表現します。

## ③ 聖隷の歴史ゾーン

キリスト教信仰を土台として、聖隷がどのように生まれ、成長して今につながる精神の礎が築かれたのかをお伝えします。長谷川保氏や聖隷の先人たちが聖なる神様の奴隷となつて、召命に人生を捧げた業が、その後どのように受け継がれていくのかを紹介します。

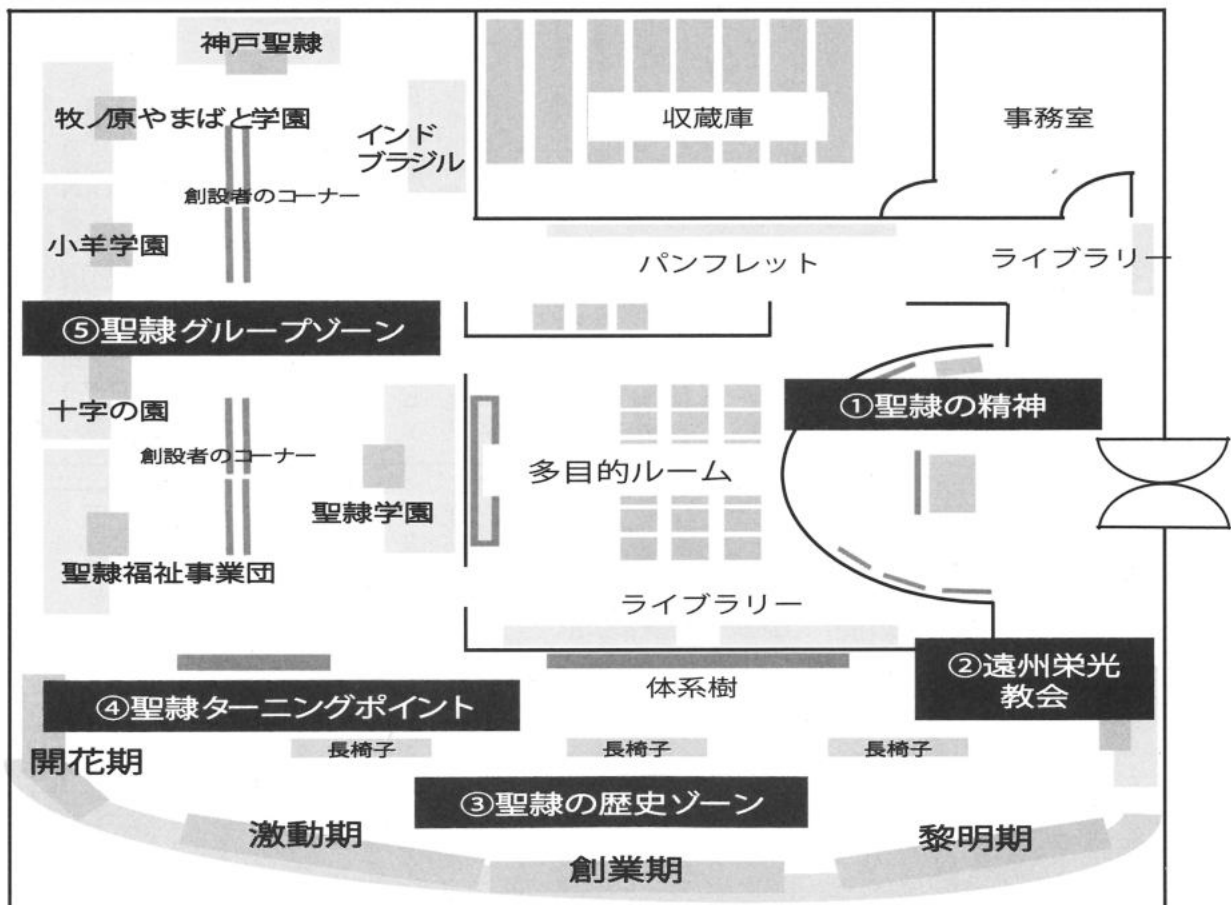
## ④ 聖隷のターニングポイント（分岐点）

聖隷の黎明期～開花期に芽生えていた保健医療福祉と教育それぞれの業が時代の変化の中で対応を求められた時期がありました。現在につながるターニングポイントは何であったのかを明らかにして紹介します。

## ⑤ 聖隷グループゾーン

聖隷グループの各ルーツ（起源）に重点をおいて紹介します。各々の創立の精神は「聖隷の精神」と同じであることをグラフィック、映像、展示の一体構成により紹介します。

このように新聖隷歴史資料館は内容、機能、それぞれにおいて再検討をしており、より利用しやすくなります。多くのみなさまのご来館を歓迎いたします。



断想 聖書の力

# 「隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい」

学校法人聖隷学園 宗教主任 鈴木 崇巨

「あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。」(マタイ福音書六・六)

イエス・キリストはよく祈る人であつたことが聖書に書かれています。イエスは弟子たちからも離れ、ひとり寂しい所に行き、父なる神に祈られました。この祈りが活動の原動力になっていました。十字架にお掛かりになる前夜「血の汗を流して」祈られたというゲッセマネの園での祈りは有名な話です。イエスのそばにはいつも父なる神がおられました。それがイエスの力の源でした。

人間は肉体の強さよりも心の強さの方が重要だと思えます。心の強さはどこから来るのでしょうか。それはこっそりかくれて神と話し込んでいる日常の祈りの生活によって養われます。毎日あなたが祈れば、父なる神とイエス・キリストがあなたと一緒に居てくださいます。そのような祈りの生活が毎日続けられてゆくと、いつの間にか人間の心は大きな

エネルギーを蓄えます。これが心の大きな力になってきます。聖隷社クリーニング店にもホテルホームにも聖隷保養農園にも、この隠れた祈りの力がみなぎっていたに違いありません。

保養農園で療養していた八田亨二氏は、ある日の夕方、長谷川保先生が病室に入つて来られ、優しく「去年日光に当たり過ぎたのですね。私どもの指導が行き届かなかつたからです」とわびて、非常に丁寧に、そして謙虚に励ましてくださったことを忘れられないと言つておられます。「驚のごとく翼をはりてのぼらん―聖隷の療養とケア」(二四九頁)長谷川保先生は演説をする時は大きな声で次々と言葉の出で来る人でしたが、一人の病人に話す時は、八田氏が言っているように誠実さがにじみ出て来るような人でした。このような人柄はどこから出て来るのでしょうか。長谷川保先生にかぎらず、人に仕えるようにする人々はみなこっそりと一人で祈る人々です。そのような祈りの生活が活動の源になっているにちがいありません。

\*\*\*\*\*

## 聖隷グループ情報コーナー

\*\*\*\*\*

【社会福祉法人 十字の園より】

聖隷宝塚地区で研修会開催のご案内

◆キリスト教軽費・ケアハウス交流会

期日 二〇一二年一〇月一七―一八日

会場 宝塚ホテル(宝塚)

主題 軽費・ケアハウスの課題へ挑戦

「要介護入居者への生活に、あの手・この手・奥の手」

◆キリスト教高齢者福祉研修会

期日 二〇一二年一〇月一八―一九日

会場 宝塚栄光教会、宝塚ホテル

主題 キリスト教社会事業の原点に学ぶ

「聖隷福祉事業団に学ぶ」

松井直樹氏

「聖隷の宝塚地区での歩み」

川勝陽一氏

「施設の質とサービスの質」

鈴木卓也氏

【聖隷歴史資料館より】

「聖隷グループ第四回キリスト教信徒交流会」を今年度も予定しております。

今年度は牧ノ原やまばと学園による企画です。詳細につきましては、追ってご案内いたします。みなさまのご参加をお待ちしております。

◆刊行物のご案内

## 「愛は忍び耐える

私の生かされた道」

鈴木唯男著

本書は、特別養護老人ホーム御殿場十字の園の広報誌「十字の園」に昭和五年から昭和六二年まで計三四回掲載された連載を一冊の本にまとめ、昭和六三年に社会福祉法人十字の園より発行されました。

著者の鈴木唯男氏は今年七月六日に満一〇〇歳をむかえられました。昭和四年に一七歳で聖隷社クリーニング店に入り、以後ケースワーカーとして活躍しました。社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷厚生園の元園長、社会福祉法人十字の園の元理事でいらつしやいます。本書では結核患者との関わりの中でどのように歩み、またその後の厚生園時代についてどのように関わってこられたのかを書き綴っています。

発行にたずさわった当時の御殿場十字の園園長森本節夫氏は、「昔の結核患者との関りの中での仕事と、今現在の特別養護老人ホームの仕事と、本質的になんら変わらない事が、理解されたのであります。」と記し、「老人福祉関係者はもとより、広く読んでいただきたい。」と紹介しております。

## 長谷川保聖書研究

マタイによる福音書 第五章一―六節

「イエスは山に登り、腰を下ろされると」という言葉は、当時のラビ（ユダヤ教の先生）が正式に教える時の教え方、つまり弟子達に正式に教えたという意味です。「それからイエスは口を開き教えられた。」この口を開いて教えられたという言葉はギリシャ語の不定過去で一回の出来事を示す言葉であるけれど、おそらく繰り返し、習慣的に教えられた、三節以下に書いてあります山上の垂訓は、弟子たちにキリスト教の真理の中心、キリストの教えの中心として、繰り返し教えられただろうということです。

そこで三節以下の本文に入っていく訳です。「心の貧しい人たちは幸いです。天国は彼らのものである。」「幸いである」は「マカリオス」で本来は「神の祝福を受ける」という意味の言葉。「神に祝福されることは最高の幸せ」という意味ですね。前にも申しあげたように、「生きる」という言葉が聖書には二つあるんですが、大概は「死を突き破って復活する命」という言葉でございます。そこから私どものキリスト教徒の信仰に生きる道は、死ぬはお終いだというものではなくて、時間とか空間を超越した永遠の生命、永遠の喜び、永遠の幸せというものを問題にしておることを私どもは学ぶ訳です。「貧しい」というのは「プトーコス」で、

乞食同然であると意識する人々という意味の言葉であります。「心の」と訳しておりますのは、「ブネウマテイ」で神を知る能力。聖書でよく書かれている言葉では霊。心の中で、霊において神を知る能力において、乞食同然の無一物の者だと考えておる人たちは神の祝福を受けるという意味ですね。天国は彼らのものである。「天国」というのは「王である神が支配している国」、神の国はこの人達のものであるということですね。私どもは、霊においても信仰においてもいとも貧しい者であるということでもよろしいわけです。

四節、「悲しんでいる」は「ペンセオー」、嘆き悲しむという意味の言葉。「慰める」という言葉に関連して出てくるのは「バラクレートス」で、それは「助けるために傍へ呼び寄せられた人」という意味です。今日で言えば「弁護士」、「弁護士」という意味で、ヨハネ福音書では「助け主」、イエス・キリストが聖霊について用いられた言葉です。ですから、人生において己が罪に泣いている人、或いは様々な障害を持って来た人、ひどい病気をしている人、人生に失敗をして泣き悲しんでいる人、自分の罪に泣いている人、これらの人は神の祝福を受ける、キリストが聖霊を遣わしてお慰めになる。神様の前に、私どもの罪を糾弾する人々の前に弁護をなさる。やがて地上の生涯を終わるとしても、私どもの前には助け主なる主、復活の主なるキリストがいます。我らは彼の助けによって永遠の神の国に復活し、永遠の命を継ぐ

ものとなり、神の祝福を受けるのである。

五節、「柔和な人たち」、これは「ブラウス」で、「柔和な、温和な、素直な」と訳せる言葉であります。彼らは地を継ぐであろう。「地」は「ゲイ」というギリシャ語。これはこの大地を指すと同時に天に対する地、世界という意味の言葉であります。受け継ぐというのは「クレエロノメオー」で、「相続する、相続財産として自分の物にする」という意味の言葉です。世界を相続する者それは柔和な人、素直な温和な人であるということですね。決してその戦いに強い者でも水爆を持っている者でもないというわけですね。ことに「天のパシレイヤ」は、「神の統治とか神の支配」という言葉であります。それに対する「地」、「世界」。今私どもこの時間と空間の中で生きておりますけれども、私どもは天と連なって永遠の生を時間と空間の中で既に生き始めているわけです。「終わり」という言葉は完成するという言葉でありますから、その時に神の国を継ぐ、永遠の国を継ぐ。それは素直な柔和な温和な者である。柔和なことは、決断にも優れており、またこの勇気を持つておる。知恵にも優れ、理性にも知性にも富んでおる。その人にしてしかも主イエス・キリストを知るといふことになりますと柔和にならざるを得ないわけです。時に激しい言葉も述べますし、為さねばならない時には捨て身の行動もいたしますけれども常に柔和ですね。それは主に救われた者ですから、贖い主になります。主が私どものために命をお捨てになっ

たのですから、私どもの功績によって神の子とされたものではありませんから、そのことを知っている者は柔和であり素直であり温和ですね。そういう人たちが世界を継ぐ、神の国を継ぐ者である。ですからこの人たちは神の祝福を受けているということです。

六節、「義に飢えかわいている人たちは、幸いである。」「義」、これは「デイカイオスネイ」で始終聖書に出てきません。意思と思いと行動において神の意思に合致していること、実生活の隅々まで神の正しさの原理が及んでいることです。「飢えかわいている」という言葉、当時ユダヤ人は非常に貧乏でした。食物がなくて飢え死にをすることが絶えずあった。本当に当時のユダヤ人というのは飢えたですね。飢えるということがどんなに辛いことであるか、今日インド、バングラデシュ、或いはアフリカ、インドネシア、フィリピンで飢える人があるわけです。これはまた大変なこと、水がなくて苦しむことをいうわけですね。ユダヤの辺りはずっと荒野で、水がない。その荒野の旅をしてくる。水がないと干からびて死ぬようなことが始終あるわけですね。この渴くつていふのは、飢えるよりもつらいですね。そのように神の義しさを追い求めて飢えるが如く、渇く如く神の義しさを求めると、その人たちは必ず神の祝福を受ける。神の祝福を受け彼らは飽き足りるようになるであらうというのであります。

(講義内容より一部抜粋)